

県立結城第二高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	これまでの学校生活で、個性・能力を適切に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、 1 個に応じた指導を通し、向上心を高め、自己実現を目指せる学校 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校 4 生徒との信頼関係を基盤に、教師自らの資質・能力の向上が図れる学校									
昨年度の成果と課題		重点項目	重	点	目	標	達成状況			
・フレックススクールの基本的なシステムを維持しながら、それらを持続的なものに熟成させていく。 ・基礎学力の向上に努めその成果を上げつつも、幅広い学力差に応じる指導を組み立てる。 ・生徒たちの適切な職業観や勤労観を育てるためのキャリア教育を推進してきたが、それらを学校全体でより一層効果的なものにしていくための連携を強化していく。 ・日頃のきめ細やかな指導により、落ち着いた学校生活と良好な人間関係を築くことができるようになったが、生きる力をより高めるためにコミュニケーション能力の育成などに引き続き努める必要がある。 ・地域に開かれた学校づくりのため様々な取り組みが定着してきたが、それらを生かした人的交流などを通し、生徒たちの人間性の向上を図る必要がある。 ・教育相談体制を組織化してきたが、より実効性のあるものを目指しながら、関係機関との連携強化を図る。 ・三部制に合わせた効果的な行事運営を模索してきたが、より一層の円滑な運営と活性化を図る。		主体的・意欲的学習態度の育成による基礎学力の向上と、考える力の育成	①	言語活動を取り入れた授業形態等の工夫改善に努める。						
			②	個に応じた指導を実践する。						
			③	生徒が主体的・意欲的に学習に取り組めるような指導を実践する。						
			④	自己学力の伸長を確認させることにより、学習意欲の向上や考える力の育成につながる指導を実践する。						
		進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	⑤	キャリア教育を組織的に推進し、社会性や職業観を養う。						
			⑥	進路ガイダンスの充実や適切な進路情報を提供することで、進路意識を向上させる。						
			⑦	多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。						
		規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献のできる豊かな人間性の育成	⑧	自己肯定感を高め、自律的生活習慣を確立するなど、健やかな成長の基礎形成を徹底する。						
			⑨	問題行動の早期発見に努め、関係機関との連携を深め、未然防止と早期解決に努める。						
			⑩	安全教育や情報モラル教育を推進する。						
	⑪	社会奉仕体験活動を充実させ、地域と連携した多様な活動を推進する。								
	⑫	コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。								
真に開かれた学校づくりと地域との連携の推進	⑬	地域行事やボランティア活動への参加を推進し、地域と共に取り組む避難訓練を充実させる。								
	⑭	学校設定科目での聴講生の受け入れや部活動などでの地域交流を通し、相互の教育力を共有する。								
	⑮	PTA活動の充実を図り、保護者との連携を深め生徒支援をより効果的なものとする。								
組織的な相談体制づくりと個に応じた対応の強化	⑯	研修会等を通して個々の教職員のスキルアップを図る。								
	⑰	スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。								
	⑱	心身の健康の状態を的確に把握し、必要に応じて関係諸機関とも連携して、個に応じた適切な対応をとる。								
より積極的な特別活動の広がり実践	⑲	多くの生徒が参加できる学校行事を企画・運営する。								
	⑳	学校行事や部活動を通して、生徒の主体性や積極性を引き出す。								
評価項目	具体的目標	具			体	的	方	策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	生徒の習熟度に応じた授業の実践	生徒の習熟度に応じた指示や発問を工夫するとともに、適切な補助教材を作成し、理解や達成感を高める授業を行う。			② ④				
		指導方法の工夫と学習意欲の喚起	生徒が主体的に取り組めるように教材を精選し、補助教材を作成するとともに、指導の在り方を工夫し、理解や達成感を高め、学習意欲を喚起する。			① ③				
		基礎学力の向上	語彙力を高めるために、副教材を有効に活用し、漢字能力検定合格につなげる。			② ④				

※ 評価基準 A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成されていない、D：達成されていない

教 科	・地 公 民 歴	主体的意欲的態度の育成	副教材や視聴覚教材を使用しながら、意欲・関心を高める授業を進め、基礎的な知識の定着を図る。 ① ④			
		基礎学力の定着	新聞などを利用して、社会に適応できる一般常識や基礎学力を身に付けさせる。 ② ③			
	数 学	個に応じた指導	習熟度別授業において、個々の能力に応じた指導を実施する。机間指導をこまめに行うことで、個々の生徒に対応した指導を実践する。 ② ③			
		基礎学力の定着	問題演習の時間を十分にとることで、学習内容の理解と定着を図るとともに、主体的に授業に参加する姿勢を育てる。 ③ ④			
	理 科	関心・意欲の向上	観察・実験を重視する等、自然体験の機会を積極的に設ける。その際、生徒の班編制は活動しやすいものとし、必要なときはチームティーチングを行う。 ① ③			
			教材を工夫し、主体性の向上を図る。 ② ③			
		基礎学力の向上	基礎的な学習内容についてテストを行い、理解度を調べると共に、基礎的な学力の伸長を図る。 ④			
	保 健 体 育	体育	基礎体力の向上 毎時間の授業で定期的に体力を高める運動を行なう。 ② ③			
		集団行動及び規律ある学校生活の確立	集合・整列・号令などの集団行動を通して、規律ある学校生活及び基本的生活習慣の確立を図る。 ⑧			
		保健 学習意欲や関心を高める授業	パワーポイントや視聴覚教材を活用し、関心・意欲を高める。 ④			
	芸 術	授業態度の確立	教室の利用、道具の準備やかたづけなど、ルールを守って授業に臨む態度を育てる。 ⑨			
		基礎技術の習得と向上	生徒の技術力を向上させるためのサポートを常に心がける。 ② ③			
		表現力の養成	芸術を通して自己を表現することにより自己実現ができるよう、表現力を育成する。 ⑧ ⑫			
		鑑賞能力の向上	すぐれた作品に触れる機会を増やし、身近に感じることができるようにする。 ① ⑫			
	英 語	基礎学力の向上	生徒に応じたワークシートの作成やアクティビティの活用によって、授業内容の定着を図る。 ② ③			
			家庭学習課題を適宜生徒に課し、学習習慣を定着させる。 ② ③			
		学習意欲の向上	本校に適したCan-do（評価法）に改善を加えて適切に評価し、生徒にとって自己の到達度が分かりやすくなるように工夫する。 ③ ④			
			進路選択の幅を広げるため、資格取得への意欲を高める。 ③ ⑦			
		主体的なコミュニケーション能力の育成	本校に適した英語による授業を試みる。 ① ②			
			コミュニケーション活動を多く取り入れ、人との関わり方を考えさせる。 ④ ⑫			
	家 庭	基礎知識・技術の向上	教科内容・教材の精選・工夫をし、少人数による個に応じた指導を行う。 ① ④			
			個々の生徒の進度・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導を行う。 ① ②			
			技術検定を実施し、資格取得への意欲を高め、基礎知識や技術の向上を図る。 ③ ④			
		創造的・実践的態度の養成	各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、生徒の指導に生かす。 ③ ④			
			家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、生徒が生活の中で生かせる能力を養う。 ③ ⑭			
	情 報	指導方法の工夫と学習意欲の喚起	教科内容・教材の精選・工夫をし、情報社会において必要な基本的知識、モラル、マナーを身に付けるとともに、情報機器の効果的な活用法を身に付けさせる。 ③			
		基礎知識・技術の向上	ワープロ、情報処理技能検定を実施し、資格取得への意欲を高め、基礎知識や技術の向上を図る。 ① ④			

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない

教 務	授業時間の確保	授業の確保に努めながら、より効果的な学習環境の整備に努める。	①			
		授業填補は同一教科内で行うことを原則とし、担当者と協議しながら効果的な時間を確保する。	①			
	個に応じた指導の支援	習熟度に合わせた個別指導を支援する。	② ④			
	フレックススクール環境整備	観点別評価をふまえた、より分かりやすいシラバスを作成する。	③			
		聴講生の募集・公開授業等により、地域に情報を発信しながら教育力を高める取組を推進する。	⑭			
	広報活動の改善・推進	効果的なポスター・学校案内を作成するとともに、学校ホームページによる速報を推進する。	⑬			
	図書活動の確立と読書習慣の推進	図書館内の美化や図書の配置・整備をし、図書館利用の活性化を図る。	④			
		図書館利用のマナーを身に付けさせる。	② ⑪			
		生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。	④			
		図書館だよりを発刊するなどし、図書委員会活動を活性化する。	⑲			
	視聴覚教材の活用	視聴覚教材の充実を図り、日常の教育活動に役立てる。	④			
		放送設備を充実させ、放送委員会の活性化を図るとともに、効果的に利用できるようにする。	③ ⑲			
生徒指導	生徒理解に基づく指導	アンケートや個別面談を始め、学校生活のあらゆる場面を利用して生徒理解に努める。	⑨ ⑱			
		生徒に関する情報を整理・共有化するシステムを推進し、いっそうの生徒理解を図る。	⑨ ⑱			
		個に応じた生徒指導を工夫・実践する。	⑱			
	自律的生活習慣の確立	年間を通した登校・下校指導により、あいさつ励行や身だしなみ確認などを促し、規範意識の高揚を図る。	⑧ ⑫			
	安全教育の推進及び環境整備	交通安全教室や防犯講話、携帯電話安全教室等、外部機関と連携した指導を積極的に実施し、交通モラル、情報モラル等の高揚を図る。	⑩ ⑫			
		自転車点検を学期ごとに実施し、自転車の整備を促進するとともに、年間を通した登下校指導の中で法規を遵守した自転車の乗り方指導をする。	⑩ ⑫			
		年間を通した防犯パトロールや登下校指導等、生徒の安全・安心を守る取組を継続する。	⑨			
	豊かな人間性の育成	「ボランティア・トレッキング」・「結城市環境美化パートナーシップ事業」等の奉仕体験活動や、地域の施設・学校との交流及びボランティア経験の機会を設け、自己有用感の高揚を図る。	⑪ ⑬			
		ゲストティーチャーによる講話やマナーやルールについて考える機会を持つことにより他者理解や豊かな心の育成を図る。	⑫			
	地域との連携	関係機関や地域内学校との連携・協力体制を継続・発展させる。	⑨			
		地域で働く人や住民から「結城二高サポーター」として、生徒指導の協力を得る。	⑨			

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない

特別活動	ホームルーム活動及び学校行事の充実	多くの生徒が参加できるようにホームルーム活動や学校行事の形態を工夫する。	⑬			
		担任との連携を密にしながら、多くの生徒が参加できる三部合同の体育祭を企画・運営する。	⑬			
		行事を活用することで、生徒の社会性及び主体性の育成を図る。	⑬ ⑭			
		生徒会本部役員のリーダーシップを生かした学校行事にする。	③ ⑫			
	部活動の充実	多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間などを確保する。	⑭			
		部活動の活動計画を明確化することにより、活性化を図る。	⑭			
進路指導	職業観・勤労観の育成	キャリア教育を計画的に進め、社会的・職業的自立に必要な能力を養成する。関係諸機関と連携し、インターンシップを実施する。	⑤			
	進路意識の確立	修了までを見通した進路講話・進路ガイダンスを、各年次と協力して計画・実施し、卒業後の生活をどのようなものにするか、考えさせる。	② ⑦			
	学力の向上	教務・年次と連携した課外授業を実施し、上級学校進学に必要な学力を養成するとともに、推薦入試や就職試験対策としての面接指導を計画的に実施する。	⑦			
	志望進路の把握	進路希望調査を実施して、生徒の志望進路の把握に努めるとともに、各年次と連携して適切な指導を行う。	⑦			
	資料・情報の収集整理	生徒や職員が必要とする資料や情報を収集・作成し、提供する。	⑥			
保健厚生	生徒が学習するための環境整備と安全教育	生活範囲の環境美化に努めることを通して、環境美化意識を養う。	⑧			
		安全教育を通して、危機を回避する意識を高める。	⑧ ⑩			
	心身の健康促進	心身の健康の状態を的確に把握し、自主的に健康を保持増進する意識を持たせる。	⑧			
		健康講話を通じて、正しい知識を身に付けさせ、健康で安全な生活を送れる力を養う。	⑧ ⑩			
		教職員や関係諸機関と連携をとり、生徒の心身の健康状態について共通理解を持ち、適切に対応できるよう努める。	⑯ ⑰			
渉 外	保護者と教職員の協力と連携	保護者と教職員が連携した、円滑なPTA活動を行えるよう努める。	⑮			
	PTA活動の活発化	各専門委員会、支部会、理事会活動等が活発に実施できるように、本部役員と内容を検討し、精選することに努める。	⑮			
	同窓会と連携協力	同窓会活動が円滑に行われるよう、連携協力を努める。	⑮			
コーディネーター	組織的な相談体制作りと個に応じた対応の強化	カウンセリングや特別支援教育等に関する研修会を実施し、個々の教職員の専門性向上を図る。	⑯			
		スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。	⑰			
		生徒の心身の健康の状態を的確に把握できるように各年次・部との連携を密にし、さらに関係機関とも連携しながら、個に応じた適切な対応を図る。	⑮			
事 務	学校の窓口としての的確な接遇	電話・窓口等において、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて、相互の信頼関係を高めるよう努める。不審者対策に努める。				
	予算の適正な執行	予算について計画性、経済性、効率性及び有効性を重視した執行に努める。校内において予算要求並びにヒアリングを実施するとともに、電子入札システムについて職員に周知を図る。引き続き光熱水費の節減に努める。				
	安心安全な学校生活のための教育環境の整備・充実	校内の安全点検等情報収集に努め、生徒・職員が安心して生活できる教育環境の整備・保全を推進する。強風等災害の際には臨時的に点検を実施する。施設設備等の経年劣化による危険箇所の早期発見・早期改修に努め、計画的に実施する。				

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない

1 年次	自己理解と自己肯定感の向上	学校生活の様々な場面における経験・体験を成長へとつなげるとともに、自己理解と自尊感情の向上を図る。	⑧ ⑳			
		進路ガイダンスの実施や進路情報の提供により、興味・関心・適性等の自己理解を促す。	⑥ ⑦			
		生徒・保護者の特性や問題について、教員間での情報共有を密にするとともに、支援方法に配慮しながら関わる。	⑨ ⑯			
	基本的な生活習慣の確立と社会性の向上	登下校指導において、挨拶・身だしなみ・礼儀正しい態度の育成を図る。	⑨ ⑫			
		生徒とともに美化活動に取り組み、快適な学習環境を提供する。	⑪ ⑫			
		情報モラル教育を推進し、情報化社会における態度の育成を図る。	⑩ ⑫			
	基礎学力の向上	関係職員と連携し、生徒理解に努め、個に応じた適切な学習支援を行う。	① ②			
		ホームルームの中で学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	③ ④			
2 年次	個に応じた指導と向上心の育成	個に応じた指導により、各生徒の自尊感情や自己肯定感を高めるとともに、向上心を高めようとする意欲・態度を育成する。	② ⑧			
	自他理解と社会性の伸長	修学旅行等の学校行事を通して、自らを育むとともに、他者を理解・受容しようとする態度を育成する。	⑪ ⑳			
		日々の生活を通して、周囲への配慮を怠らず、礼儀作法や規範意識に基づいて他者と関わろうとする態度を育成する。	⑨ ⑫			
		道徳プラスを通して、道徳的な判断力、実践意欲、態度及び習慣を育成する。	③ ⑫			
	進路実現に向けた学力の向上と学習の習慣づけ	進路指導部と連携して効果的な進路指導を模索するとともに、人権に配慮して個に応じた適切な進路目標を設定させる。	⑥ ⑦			
		ホームルーム等で学習時間を確保することで基礎学力を向上させるとともに、学習の習慣づけを図る。	③ ④			
3 年次	個に応じた進路指導と進路目標の実現を目指す	進路指導部や特別支援コーディネーターもしくは外部機関と連携し、生徒や保護者との個別面談を充実させ、適切な進路目標の決定を促す。	⑦ ⑯			
		進路目標に必要な指導（面接練習・模擬試験の分析とフィードバック・基礎学力の強化）を綿密に行い、目標の実現に向けて生徒が主体的に取り組めるよう支援する。	③ ④			
		「外国につながる生徒」にも、日本での就学・就職に有益となるよう適切な指導を行う。	⑦ ⑫			
	社会人としての基本的な素養を身につけさせる	社会人に必要な基礎的な素養（礼儀作法・言葉遣い・手紙や服装のマナーなど）を平素から連綿と指導する。	⑧			
		ホームルーム活動を通して、良き社会人としての在り方を考えさせる。	⑤			
		「外国につながる生徒」にも、日本における良き社会人としての在り方を考えさせる。	⑧ ⑫			
4 年次	個に応じた進路指導と進路目標の実現	進路指導部や特別支援コーディネーターもしくは外部機関と連携し、生徒や保護者の進路決定および進路実現を多方面から支援する。	② ⑦			
		自己管理能力を高め、学校生活に自主的に取り組むことによって自立した社会人として生活して行くことにつなげる。	⑧ ⑳			

※ 評価基準 A：達成できた，B：ほぼ達成できた，C：あまり達成されていない，D：達成されていない